

外観と構造

設計に際しては、常にステレオ電蓄のもつ機能を買つていただくという立場に立つて、各部の基準を決めております。ではステレオ電蓄のもつ機能が何であるかを数値的に明白に表現することが相当に困難であります。FS-195 形では、下記機能が充分満足されるような設計がされております。

- ① ラジオのステレオ放送およびレコードを良い音で聞くことができる。
- ② 部屋の装飾品としての役割を持たせる。
- ③ レジヤの対象としての娯楽性を高める。
- ④ ステレオ電蓄を持っているということの満足感をあたえる。

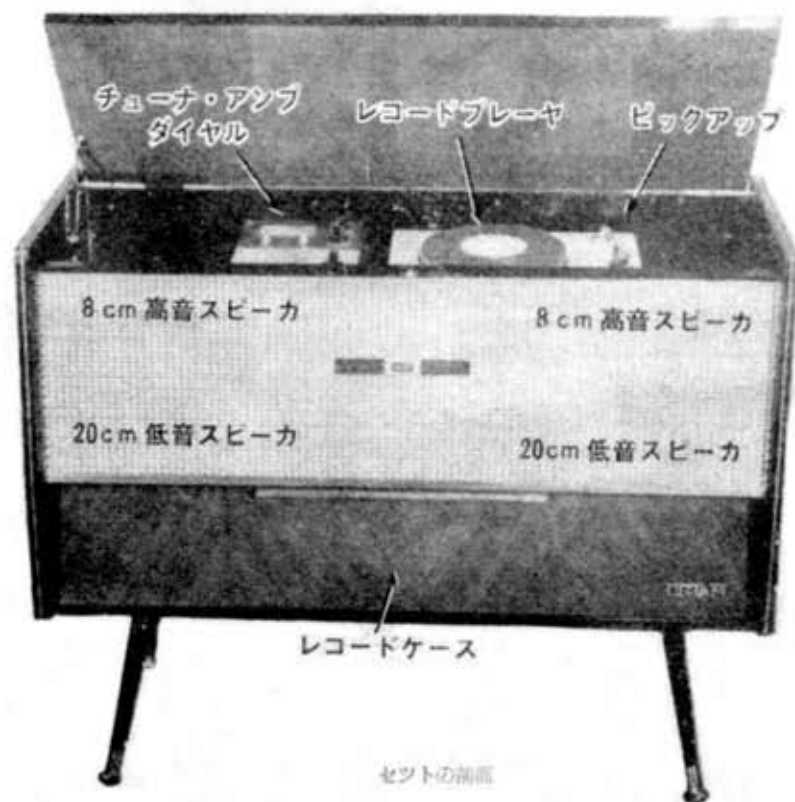
等々の機能に対して、販売価格から購買者層を考えて各々の機能を設計しております。

最近のステレオ電蓄の傾向として、アンプ部、スピーカ部が一本化された形が多く、金色の飾り金具等を多く使用して一見して豪華さを増したデザインが好まれておりますが、FS-195 形では、豪華さの中にも落ちついたデザインを採用しております。部屋の装飾品としても充分使用できるようなキャビネットの材質塗装を考え、特に天板は蒸器に使用される高級なマコーレ材の木目出しの塗装にしております。

構造はプレーヤおよび各々のツマミの配置は、立つた状態で使用できるようにキャビネットの上面とし、プレーヤとダイヤルエスカッション部の左右には各種の附属部品を置けるようなスペースを設けております。

さらに前面板を前に開きますと装飾帯がありまして、レコード板は勿論雑誌等を入れることができます。アンプ上部にレコードケースを設けますと、夏季にはかなりの温度上昇があつて、高価なレコード板のソリが問題となりますので、この心配がないような構造とし、しかも十分なスペースをあたえております。

つぎにツマミ配置とインジケータに

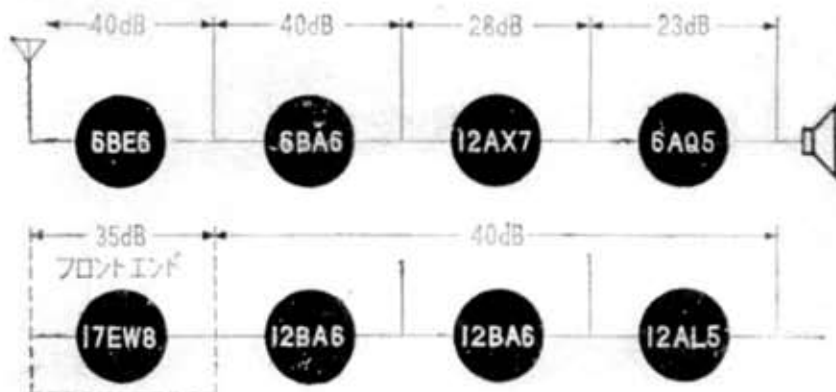


ついてのべてみましょう。ツマミについては、単一機能のツマミを設けることにより使用する時の煩雑さを避けております。ステレオ放送を聞く場合に調整しやすいように同調ツマミと音量調整ツマミを各チャンネル別々に同軸にしております。附属機構が多くなるにつれて、その取扱いも複雑となりますので、各種の表示装置を設け取扱いを

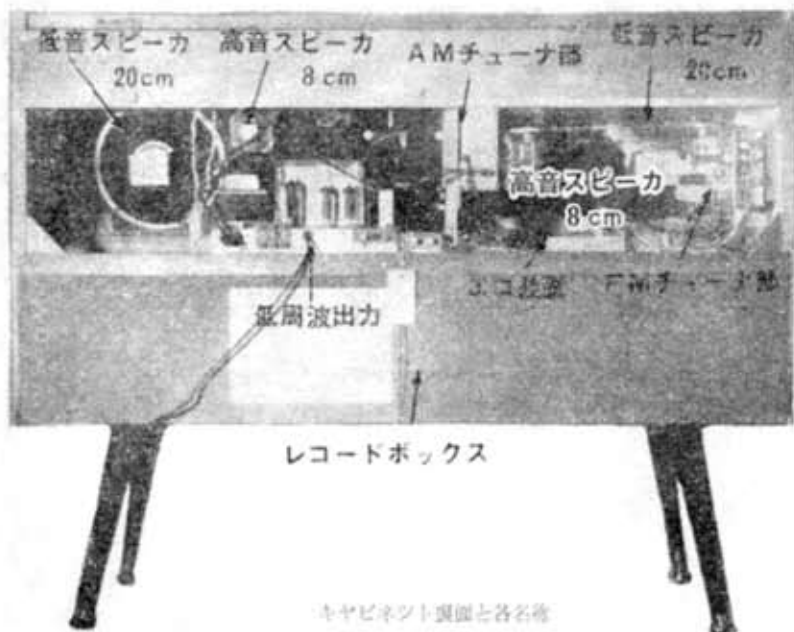
容易にしております。

スピーカとシヤシの配置としては、普及形ステレオ電蓄の使用する部屋の大きさは、6~10畳の日本間が多く、しかも比較的セットから近い位置で聞くことが多いのでツイータをウーハーより内側に、ホール効果を防いでおります。

シヤシについては、サービスが容易



(図1) 東芝FS-195 形ブロックダイヤグラムと利得



キャビネット裏面と各名称

セットの規格一覧

チューナーアンプ部

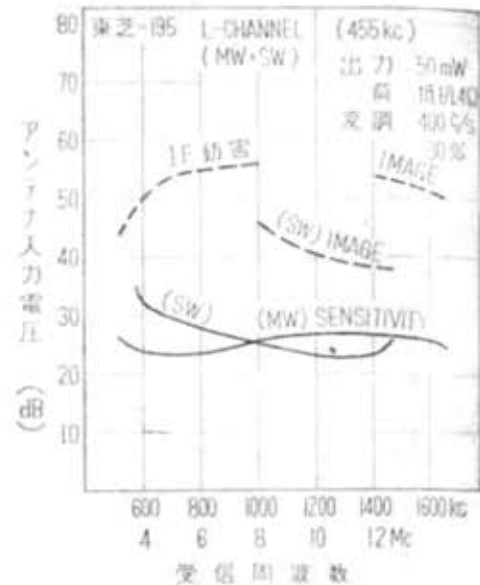
- 形式 12球4ダイオード3バンドFAM-FM総合形ステレオアンプ (2チューナー方式)
- 受信周波数帯 中波 (MW) 535~1605kc 短波 (SW) 3.9~12Mc 超短波 (FM) 76~90Mc
- 感度 極優増幅段
- 中間周波数 AM₁ 455kc AM₂ 475kc FM 10.7Mc
- 出力 無歪 3W+3W 最大 4.5W+4.5W
- 消費電力 120V A
- 耐歪 85/100/110V 50c/s 60c/s
- スピーカ 高音 8cm×2個

外形 20cm×2個

- キャビネット 幅 1015mm 高さ 535mm 奥行 300mm 重積33kg FMアンテナ内蔵あり

プレーヤ部

- 形式 4スピードステレオプレーヤ
- モータ 二極インダクションモータ
- 選段強化機構 鋼メカテック・プレーキ
- ターンテーブル 20cm
- ピックアップ ダイナミックバランス ターンオーバー部クリスタル
- 消費電力 10W
- 重積 2.9kg
- 針圧 7g



受信周波数 (kHz) 600 800 1000 1200 1400 1600kc
4 6 8 10 12Mc

受信周波数 (Mc)

(注3) 左チャンネル中波 短波 超短波 のように、FM部をのぞいて完全トランス方式にしております。シヤシンの重量を考慮して、取付けの安定を増すためのプリメインおよびFMシヤシンの2分割にしております。

セットの特徴

FMチューナーの回路の特徴は、バリキャップを使用した AFC 回路付で、FMステレオ放送もステレオアダプダの使用により受信できます。

プレーヤはダイヤ針を使用して音り、アームはダイナミックバランスアームを採用しています。カートリッジのダンパー材としては優れた性能をもつシリコンゴムを使用しており、ダンピングのきいた Hi-Fi 音を再生できます。

残響方式もついており特に SEC という方式をそなえています。これは STEREO EFFECT CONTROL SYSTEM の略で、部屋の状態や聞く人の数、あるいはプログラム等により音の広がりを調節することができるシステムです。

スピーカシステムは、東芝独特の竹バネコイルダンブト方式を使用した 20cm のコーパード、8cm のツイーター

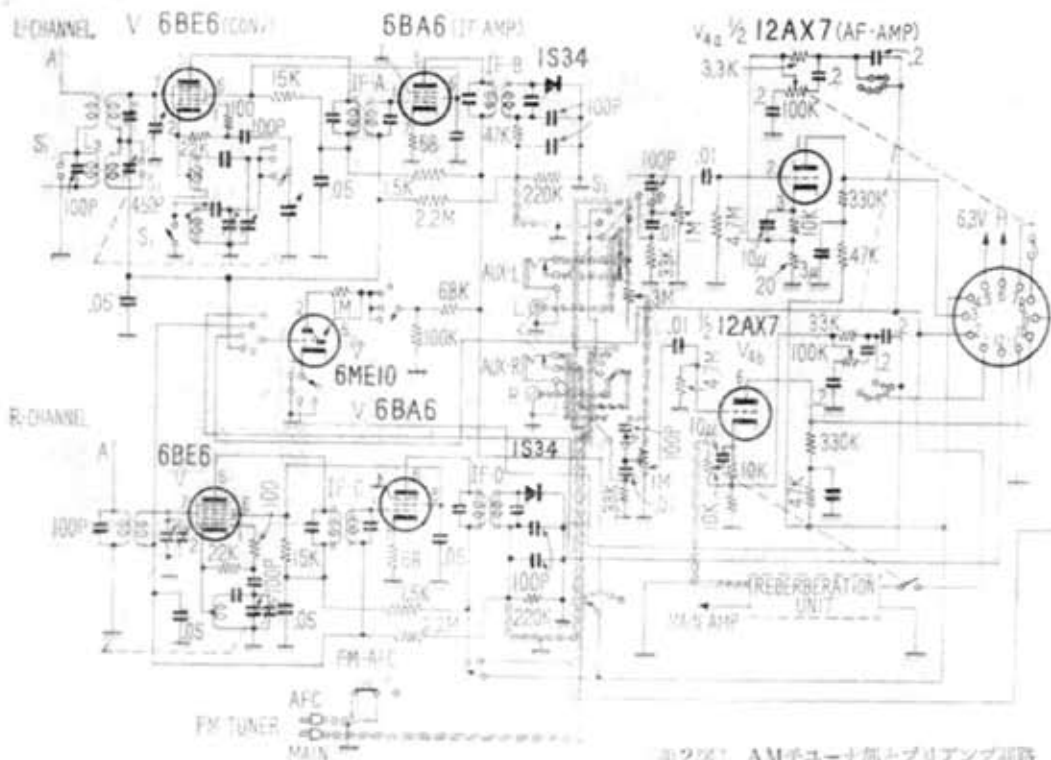


図207 AMチューナー部とプリアンプ回路

